

各会派意見のとりまとめ（令和2年1月27日 議会運営委員会）

○議員定数

会派	方針	理由
誠志会	減	呉市役所の正規職員の減少に併せて削減すべき。 また、17～28万人の都市の平均が29.8人となっている。
仁友会	現状維持	伊藤教授によると、統計学的に見ても現在とほぼ変わらない定数であった。また、伊藤教授は、そこからその他の要因を考えて決めるべきとのことだったが、呉市は地域が広範囲にわたっているということ considering して現状維持、または増でもよいくらいである。
同志会	未定	定数の方針を事前に決めるのではなく、議論の中で決めるべき。 議論を進めていく上で学術的な根拠があるほうがよいため、伊藤教授の根拠を公式的な見解とすべきではないか。
公明党	減	少子高齢化による人口減を考慮すべきである。 また、17～28万人の都市を見ても削減が妥当。
市民フォーラム	現状維持	財政的な面や職員数からというのも当然だが、どういった数字をとるかは市民意見をとることも考えられるため、現在のところは現状維持とする。
諸派		現状維持（社民，自然）：伊藤教授の根拠で現状維持 増（共産），減（日本，政友）

○議員報酬

会派	方針	理由
誠志会	増額	議員を削減した場合は、議員報酬を上げてよいか。 議員のなり手不足を解消する魅力の1つになるのではないかと。
仁友会	現状維持 または増	17～28万人の都市の平均で比べても妥当な金額である。 最低でも現状維持、もしくは増で考える。
同志会	現状維持	伊藤教授の根拠で妥当となっている。
公明党	増額	議員のなり手不足解消の施策の1つとして報酬を上げて魅力を上げるべき。
市民フォーラム	現状維持	議員定数と合わせて考えるべきだと思うが、市民意見を考えると上げるのは難しいのではないかと。 誠志会の意見である議員報酬を1万円程度上げることが、議員のなり手不足の魅力向上として言えるのか考えるべき。
諸派	現状維持	仕事量に見合っていないので、増でもよいかとの意見も出ている。

○政務活動費・行政視察費

会派	方針	理由
誠志会	行政視察費： 廃止 政務活動費： 増額	行政視察費がない市も多く、議員活動の質を高めるためには、行政視察費を廃止し政務活動費を増額するべき。 増額の金額等は議論していく。
仁友会	行政視察費： 廃止 政務活動費： 増額	調査資料等にもあるとおり、呉市の政務活動費が多いということもないため、行政視察費を廃止して政務活動費を増額すべき。 →（R2.2.19 議会運営委員会）政務活動費に一本化としていたが、職員の随行等を考え、分けて考える必要がある。
同志会	現状維持	現在、特に問題が生じているわけではないので、それぞれ必要という考え方である。
公明党	改定もあり	政務活動費を年間で半額ほど返還している状況もあり、あり方を検討すべき。（行政視察費を廃止して政務活動費を増額することも含めて）
市民 フォーラム	行政視察費： 廃止 政務活動費： 増額	行政視察費で行える範囲が政務活動費のできるのであればよい。
諸派	現状維持	なるべくしてなっている現状である。

○費用弁償

会派	方針	理由
誠志会	廃止	廃止分を政務活動費の増額としてもよいのではないかと。
仁友会	定額支給は 廃止	距離や特殊事情を考慮したものとすべき。
同志会	現状維持	定額にするか変動にするか検討してもよいのではないかと。
公明党	検討	交通費として距離制もありうるが、理解が得られるのであれば廃止も検討すべき。
市民 フォーラム	廃止	廃止でもよい。
諸派	現状維持	